



2025年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年8月8日

上場会社名 スターツ出版株式会社 上場取引所 東
コード番号 7849 URL <https://starts-pub.jp/>
代表者 （役職名） 代表取締役社長 （氏名） 菊地 修一
問合せ先責任者 （役職名） 常務取締役管理部長 （氏名） 金子 弘 TEL 03-6202-0311
半期報告書提出予定日 2025年8月8日 配当支払開始予定日 2025年9月19日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無 ：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2025年12月期第2四半期（中間期）の業績（2025年1月1日～2025年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期中間期	3,771	△11.9	749	△36.3	832	△33.9	655	△31.9
2024年12月期中間期	4,280	7.6	1,176	8.7	1,258	8.7	962	7.1

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期中間期	170.75	—
2024年12月期中間期	250.66	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2025年12月期中間期	12,103	10,180	84.1	2,651.42
2024年12月期	11,981	9,766	81.5	2,543.70

（参考）自己資本 2025年12月期中間期 10,180百万円 2024年12月期 9,766百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	30.00	—	80.00	110.00
2025年12月期	—	40.00			
2025年12月期（予想）			—	80.00	120.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年12月期の業績予想（2025年1月1日～2025年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,900	3.7	2,400	2.6	2,480	1.6	1,730	△5.3	450.57

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2025年12月期中間期	3,840,000株	2024年12月期	3,840,000株
2025年12月期中間期	417株	2024年12月期	383株
2025年12月期中間期	3,839,591株	2024年12月期中間期	3,839,623株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項はP. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報の(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国経済は、米国の通商政策に起因する不透明感が景気の下振れリスクとなるものの、雇用・所得環境の改善による個人消費の持ち直しや堅調な企業業績を背景に緩やかな回復基調で推移しました。

このような状況の中で、当社は「感動プロデュース企業へ」という経営ビジョンのもと「文化と笑顔の需要創造」をミッションに掲げ、紙・電子出版による書籍、コミック、雑誌の発行、「野いちご」等の小説サイトの運営、女性向けWEBサイト「オズモール」での情報発信や施設予約サービスの提供、イベント開催等とそれらを掛け合わせたPR・販促ソリューションの提供を軸として事業を運営してまいりました。また、当社はメディアソリューション事業とのシナジー効果を期待し、6月に観光DXアプリ「SASSY」等を運営する株式会社Re1yon Tripの株式を80%取得し子会社化いたしました。なお、同社は現時点では重要性が乏しいため、非連結子会社としております。

当中間会計期間における売上高は、前年同期と比較して、書籍コンテンツ事業におけるヒット作品の増収効果の反動等により減少いたしました。利益面は、売上高の減少に加え、物価高による書籍の印刷費等の製造原価の上昇、ベースアップによる人件費の増加等により減少いたしました。

このような営業活動の結果、当中間会計期間の売上高は37億71百万円（前年同期比11.9%減）、営業利益は7億49百万円（前年同期比36.3%減）、経常利益は8億32百万円（前年同期比33.9%減）、中間純利益は6億55百万円（前年同期比31.9%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<書籍コンテンツ事業>

書籍コンテンツ事業では、自社で運営する小説サイト「野いちご」「ベリーズカフェ」「ノベマ!」を起点に、独自のマーケティングにより恋愛小説から異世界ファンタジー、ライト文芸まで幅広いジャンルの作品を書籍・コミックとして発刊しております。

当中間会計期間は、新レーベルの創刊、マーケティングの徹底による読者ニーズに沿った商品展開、映像化等のIP展開やSNS等を活用した販促施策に注力してまいりました。新レーベルとしては、2月に恋愛小説レーベル「ベリーズ文庫with」、3月に青春小説レーベル「スターツ出版文庫アンチブルー」を創刊しております。

書籍・コミックの売上高は、前年同期と比較して、映画化された小説「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」を含むヒット作品の増収効果の反動等により減少いたしました。営業利益は、売上高の減少に加え、物価高による印刷費等の製造原価の上昇、ベースアップによる人件費の増加、新レーベル創刊への先行投資等により減少しております。

このような営業活動の結果、書籍コンテンツ事業の売上高は21億95百万円（前年同期比19.6%減）、営業利益は7億26百万円（前年同期比40.4%減）となりました。

<メディアソリューション事業>

メディアソリューション事業では、オリジナルのマーケティング・モデルを創造するという戦略のもと、当社独自の基準で厳選したレストラン、ビューティサロン、宿泊施設の施設予約サービスを提供する「オズのプレミアム予約」と、「オズモール」「オズマガジン」「メトロミニッツ」等の東京地域密着の自社メディアとSNS、リアルイベントを組み合わせたPR・販促ソリューションを展開してまいりました。

「オズのプレミアム予約」では、利用者満足度が高い施設と予約プランの開発、予約可能施設の拡大、SEO等のユーザー集客施策の強化、クーポン施策等によるユーザー満足度の向上に注力してまいりました。「オズのプレミアム予約」の売上高は、名阪エリアでの予約組数の増加等により、レストラン予約の売上が堅調に推移した一方で、他カテゴリーの予約サービスの売上が減少したため、前年同期と比較して横ばいとなりました。

PR・販促ソリューションでは、「オズマガジン」等の東京地域密着メディアのブランドを活用した商業施設向けの集客支援、自治体向けの魅力発信支援、ヘルスケアマーケットへの販促支援サービスの提供等に注力してまいりました。PR・販促ソリューションの売上高は、商業施設向けの集客支援等の受注が堅調に推移したことにより、前年同期と比較して増加いたしました。

このような営業活動の結果、メディアソリューション事業の売上高は15億76百万円（前年同期比1.7%増）、営業利益は89百万円（前年同期比178.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

当中間会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べて1億21百万円増加し、121億3百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が4億2百万円増加した一方で、売掛金及び契約資産が5億58百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて2億3百万円減少し、104億11百万円となりました。

固定資産は、関係会社株式の取得等により前事業年度末と比べて3億25百万円増加し、16億91百万円となりました。

(負債)

当中間会計期間末の負債は、前事業年度末と比べて2億91百万円減少し、19億22百万円となりました。

流動負債は、未払法人税等が1億46百万円、未払消費税が55百万円、買掛金が37百万円減少したこと等により、前事業年度末と比べて3億50百万円減少し、16億71百万円となりました。

固定負債は、前事業年度末と比べて59百万円増加し、2億51百万円となりました。

(純資産)

当中間会計期間末の純資産は、中間純利益の計上6億55百万円と配当金の支払3億7百万円により利益剰余金が3億48百万円増加したこと等により、前事業年度末に比べて4億13百万円増加し、101億80百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金および現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ4億2百万円増加し、66億21百万円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額2億99百万円、仕入債務の減少37百万円、棚卸資産の増加11百万円等による資金の使用の一方で、税引前中間純利益8億81百万円、売上債権の減少5億58百万円等の資金の獲得により、8億91百万円の資金を獲得（前年同期は9億51百万円の資金を獲得）いたしました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、投資有価証券の売却に伴う収入54百万円の資金の獲得の一方で、関係会社株式の取得、「オズモール」のシステム開発等の無形固定資産の取得等による資金の使用により、1億82百万円の資金を使用（前年同期は60百万円の資金を獲得）いたしました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、3億6百万円の資金を使用（前年同期は2億29百万円の資金を使用）いたしました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2025年2月13日の「2024年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当中間会計期間 (2025年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,219,450	6,621,741
売掛金及び契約資産	2,512,151	1,953,832
製品	82,168	89,318
仕掛品	52,905	56,969
返品資産	169,944	148,223
前払費用	21,911	38,716
関係会社預け金	1,500,000	1,500,000
その他	58,967	4,869
貸倒引当金	△1,655	△1,783
流動資産合計	10,615,845	10,411,888
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備（純額）	30,850	28,704
工具、器具及び備品（純額）	12,443	13,449
有形固定資産合計	43,294	42,154
無形固定資産		
商標権	216	184
ソフトウェア	135,688	145,696
ソフトウェア仮勘定	9,826	4,409
電話加入権	2,376	2,376
無形固定資産合計	148,107	152,667
投資その他の資産		
親会社株式	823,080	986,613
関係会社株式	—	154,404
投資有価証券	180,375	119,390
関係会社長期貸付金	—	40,000
差入保証金	80,014	77,889
前払年金費用	58,500	79,149
その他	31,987	38,924
投資その他の資産合計	1,173,958	1,496,371
固定資産合計	1,365,359	1,691,192
資産合計	11,981,204	12,103,081

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当中間会計期間 (2025年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	506,343	468,889
未払金	56,987	69,060
未払費用	47,878	51,580
未払法人税等	315,384	169,287
未払事業所税	4,650	2,350
未払消費税等	55,250	—
前受金	11,094	2,319
預り金	32,339	42,359
賞与引当金	87,000	69,000
返金負債	786,042	678,529
ポイント引当金	118,773	117,704
流動負債合計	2,021,745	1,671,080
固定負債		
繰延税金負債	127,399	183,186
役員退職慰労引当金	65,225	68,475
固定負債合計	192,624	251,661
負債合計	2,214,370	1,922,741
純資産の部		
株主資本		
資本金	540,875	540,875
資本剰余金	536,125	536,125
利益剰余金	8,040,046	8,388,472
自己株式	△688	△802
株主資本合計	9,116,358	9,464,669
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	650,476	715,669
評価・換算差額等合計	650,476	715,669
純資産合計	9,766,834	10,180,339
負債純資産合計	11,981,204	12,103,081

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年 1 月 1 日 至 2024年 6 月30日)	当中間会計期間 (自 2025年 1 月 1 日 至 2025年 6 月30日)
売上高	4,280,557	3,771,739
売上原価	1,902,267	1,875,408
売上総利益	2,378,290	1,896,330
販売費及び一般管理費	1,202,166	1,147,302
営業利益	1,176,123	749,028
営業外収益		
受取利息	3,734	7,781
受取配当金	74,426	71,503
雑収入	4,237	3,731
営業外収益合計	82,399	83,016
営業外費用		
為替差損	4	—
雑損失	13	—
営業外費用合計	17	—
経常利益	1,258,505	832,045
特別利益		
投資有価証券売却益	88,636	49,321
特別利益合計	88,636	49,321
特別損失		
固定資産除却損	—	53
特別損失合計	—	53
税引前中間純利益	1,347,141	881,313
法人税、住民税及び事業税	382,106	212,180
法人税等調整額	2,589	13,537
法人税等合計	384,696	225,718
中間純利益	962,445	655,595

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)	当中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	1,347,141	881,313
減価償却費	32,484	32,457
固定資産除却損	—	53
投資有価証券売却損益(△は益)	△88,636	△49,321
貸倒引当金の増減額(△は減少)	497	128
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3,825	3,250
賞与引当金の増減額(△は減少)	500	△18,000
返金負債の増減額(△は減少)	9,084	△107,512
ポイント引当金の増減額(△は減少)	3,428	△1,069
受取利息及び受取配当金	△78,161	△79,285
売上債権の増減額(△は増加)	267,799	558,319
棚卸資産の増減額(△は増加)	△26,039	△11,213
返品資産の増減額(△は増加)	△3,868	21,721
その他の資産の増減額(△は増加)	△31,777	△39,229
仕入債務の増減額(△は減少)	△55,886	△37,454
未払金の増減額(△は減少)	△23,212	11,744
未払消費税等の増減額(△は減少)	△63,808	△53,091
その他の負債の増減額(△は減少)	△5,828	2,646
その他	16,036	△4,422
小計	1,303,579	1,111,032
利息及び配当金の受取額	78,161	79,285
法人税等の支払額	△430,008	△299,011
営業活動によるキャッシュ・フロー	951,732	891,307
投資活動によるキャッシュ・フロー		
関係会社株式の取得による支出	—	△154,404
関係会社貸付けによる支出	—	△40,000
有形固定資産の取得による支出	△2,353	△3,911
無形固定資産の取得による支出	△26,184	△31,826
保険積立金の積立による支出	△694	△694
投資有価証券の売却による収入	89,700	54,215
出資金の払込による支出	—	△5,500
その他	△152	△349
投資活動によるキャッシュ・フロー	60,315	△182,471
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△229,803	△306,431
自己株式の取得による支出	△184	△113
財務活動によるキャッシュ・フロー	△229,987	△306,545
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	782,060	402,290
現金及び現金同等物の期首残高	4,844,573	6,219,450
現金及び現金同等物の中間期末残高	5,626,633	6,621,741

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	書籍コンテンツ 事業	メディアソリューション事業			
売上高 顧客との契約から 生じる収益	2,730,468	1,550,089	4,280,557	—	4,280,557
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,730,468	1,550,089	4,280,557	—	4,280,557
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,730,468	1,550,089	4,280,557	—	4,280,557
セグメント利益	1,218,538	32,070	1,250,608	△74,485	1,176,123

(注) 1. セグメント利益の調整額△74,485千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間会計期間(自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	書籍コンテンツ 事業	メディアソリューション事業			
売上高 顧客との契約から 生じる収益	2,195,506	1,576,232	3,771,739	—	3,771,739
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,195,506	1,576,232	3,771,739	—	3,771,739
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,195,506	1,576,232	3,771,739	—	3,771,739
セグメント利益	726,471	89,308	815,780	△66,751	749,028

(注) 1. セグメント利益の調整額△66,751千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。